

演題名	<p style="text-align: center;">幸せホルモン「回想は続くよ どこまでも」 ～あの日 あの時 あの場所で Season2～</p>		
施設名	介護老人保健施設ライフサポートひなた	(ふりがな) 発表者(職種)	かわもと ひろゆき 川本 裕幸 (介護福祉士)
(ふりがな) チーム名	かいそう しあわ 「回想は幸せに」		
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの		
取り組種別	施策実行型		
改善しようとした 問題課題	日常的な物事に関心を示さなかったり、活動量が少なく傾眠される ご利用者が見られておりフロアに活気や笑顔が足りていない		
改善の指標と その目標値	(指 標) ご利用者の笑顔の増加 (目標値) ご利用者の笑顔を増やし幸せな施設生活を過ごして頂く		
実施した対策	<ul style="list-style-type: none"> ・提供時間を確保するために、多職種と連携、シフト調整し回想法の実施 ・日中の活動量を確保するために、アセスメントを基に昔の遊びを提供 ・食事からも楽しみを見つけるために、ご利用者に聴取し思い出メニューを提供 		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 日常的な物事に関心を示さなかったり、活動量が少なく傾眠されるご利用者がいた (実施後) DBD13の数値の改善に伴い、ご利用者の活動量が増量し笑顔が増えた		
歯止めと 標準化	<ul style="list-style-type: none"> ・食事からも楽しんで頂くために栄養科が定期的に思い出メニューを聴取し提供する ・親身な対応を行うためにフロアスタッフが毎日月間のレクリエーション表を作成し昔の遊びを提供する ・認知症状の状態把握を行うためにDBD13を6ヶ月に1回アセスメントを行う ・回想法の種類を増やすために幸せホルモン会議で毎月ディスカッションを行う ・利用者満足度の向上のために毎年アロマの研修を受講し資格を取得する 		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 川本 裕幸 介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	②支援部門 ③管理部門		2 齊藤 侑太 介護福祉士
活動期間	令和5年10月末 ～ 令和6年5月末		3 中平 由佳 介護福祉士
リーダー名 (職種)	川本 裕幸 (介護福祉士)		4 杉本 綾 看護師
活動回数	7 回		5 大城 杏菜 理学療法士
			6 植村 太一 調理師
			7 加藤 里奈 事務

【テーマの選定と背景】

	重要度	実現度	利用者満足度	施設方針	総合得点
やりがいを持って生活したい	◎	◎	◎	○	18点
夜間しっかりと眠りたい	◎	◎	◎	○	18点
安心できる人と一緒に生活したい	◎	◎	◎	○	18点
落ち着いて過ごしたい	◎	○	◎	○	16点
自宅で過ごしたい	◎	△	○	◎	14点

前年の取り組みで用いたマトリックス図、定期集計のDBD13に対して再評価を行い

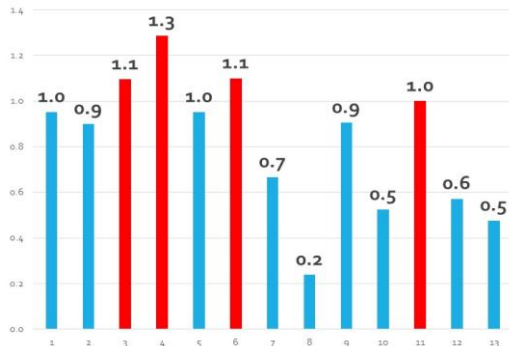
「**回想法**を行い**幸せ**、**笑顔**を引き出す取り組み」を継続して実施。

前年の取り組みから標準、定着化できている部分を把握しメンバー、職種を増やすことでより多くの利用者様へ回想法の実施、提供できるのではないかと考えた。

【現状把握】

DBD13 認知症行動障害尺度

利用者平均（28名分）2023年10月末データ



項目3.日常的な物事に関心を示さない

項目4.特別な理由が無いのに夜中起き出す

項目6.昼間寝てばかりいる

項目11.世話をされるのを拒否する

前回の取り組み後、28名を対象にDBD13の再調査を実施
その結果から数値の高かった項目3、4、6、11に着目

回想法を継続して実施 追加対策の立案！

【目標設定】

いつまでに	R6年5月末までに
何を	DBD13で高かった項目に対して
どうする	回想法で 笑顔 増やし 幸せな施設生活を送ってもらう！

【活動計画の立案】

	Why	What	When	Where	Who	How
回想法を提供できない時がある	急な欠員やシフト調整により実施が困難	回想法	日中	フロア	リハビリ&通所スタッフ	多職種連携
昼間寝てばかりいる	日中の活動量が少ない	個別レク	日中	フロア	入所スタッフ	昔の遊び
日常的な物事に関心を示さない	日々の楽しみが少ない	趣味嗜好	食事	フロア	栄養科	思い出の食事

【活動計画の実施】 ①人手不足による問題

日々の回想法を用いたレク

急な欠員で回想法やレクが実施できない...

利用者の人数が多いと職員1人だと大変...

事前に出勤スケジュールを確認し、可能な時間帯で**通所スタッフ**や**リハビリスタッフ**が回想法を実施

多職種での協力、連携ができた！



②昔の遊び、趣味による個別レク

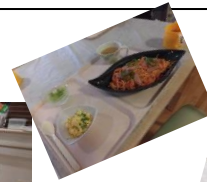
普段の回想法レクから昔やっていたご利用者様の趣味、遊び等の把握

将棋や麻雀などの趣味や昔遊んだ遊びが分かり
集団レク以外でも空き時間に個別レクを提供することができた！

③栄養科の協力による思い出メニューの提供

管理栄養士がラウンドを実施。昔よく食べていたメニューや通っていたお店などの把握！

聴取した内容を基に、毎月の会議で話し合い思い出メニューの提供



効果の確認有形効果「思い出メニュー」の提供

完食です！
ごちそうさま



テーブルクロスやBGMで喫茶店の雰囲気を作り
様かしの空間の提供。毎日の食事への楽しみ、興味につながった！

中間確認

参加されてる利用者様は以前よりは増えてきけど..



もう少し話題があってもいいかも...

これだけ人数もいるしもう少し盛り上げたいな...

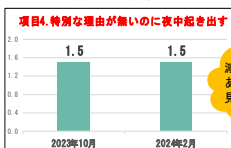
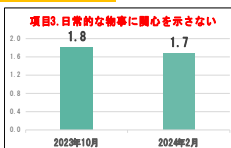
何か追加して提供してみよう！

【中間確認と追加対策】

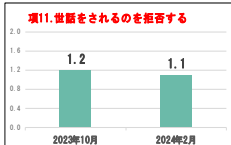
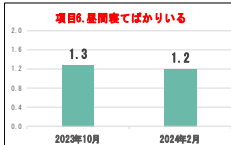
中間確認

DBDの数値変化

取り組み実施期間に入所されていたご利用者様のDBD数値変化 (11名分平均)



減少している項目もあるが大きな変化は見られず...



追加対策

見て楽しむ+香りで安らぐ/



故郷の写真に香りを乗せて

回想法を行いながら心地よい香りを提供
五感で楽しんでもらう！

アロマ研修受講スタッフによる香りの選定



【効果の確認】

効果の確認有形効果

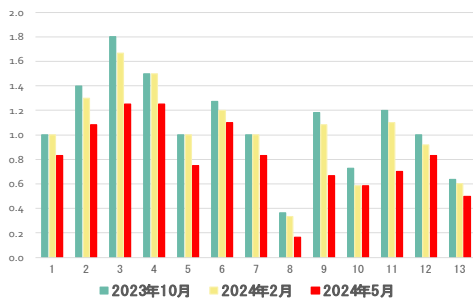


香りで癒し効果発揮！思い出話に花が咲く！！

【波及効果】

効果の確認(波及効果) DBD 13の数値変化

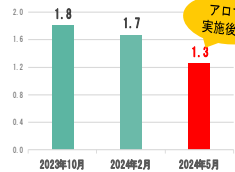
取り組み実施期間に入所されていたご利用者様のDBD数値変化(11名分平均)



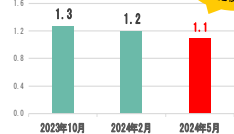
- 項目1. 同じこと何度も効く
- 項目2. よく物をなくしたり、居場所を間違えたり、隠したりしている
- 項目3. 日常的な物事に興味を示さない
- 項目4. 特別な理由が無いのに夜中起き出す
- 項目5. 特別な根拠も無いのに人に言いがかりをつける
- 項目6. 昼間寝てばかりいる
- 項目7. やたらに歩き回る
- 項目8. 同じ動作をいつまでも繰り返す
- 項目9. 口汚くののしる
- 項目10. 構造いあるいは季節に合わない不適切な服装をする
- 項目11. 世話をされるのを拒否する
- 項目12. 明らかな理由なしに物を貯めこむ
- 項目13. 引き出しやタンスの中身をすべて出してしまう

効果の確認(波及効果) DBD 13の各項目での数値変化

項目3. 日常的な物事に興味を示さない



項目6. 昼間寝てばかりいる



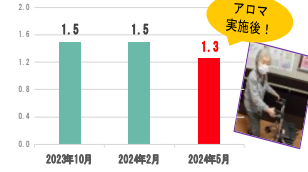
居室にこもりがちな利用者A様

居室で寝ていることが多かったがフロアで懐かしい曲を流すとカラオケに参加され他利用者様と一緒に手を叩き楽しそうに歌を歌う姿が見られた!



効果の確認(波及効果) DBD 13の各項目での数値変化2

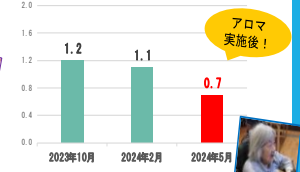
項目4. 特別な理由が無いのに夜中起き出す



夜間起きだしの多かった利用者様

「夜眠れない…」などの発言みられたがアロマを取り入れた回想法実施後、「ぐっすり眠れました」と発言あり。睡眠不足の解消につながった。

項目11. 世話をされるのを拒否する

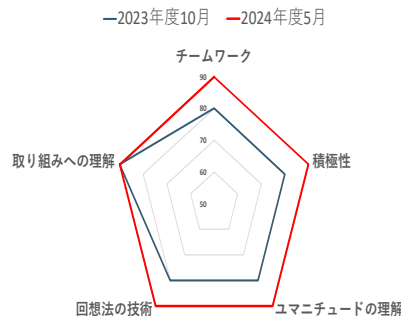


入浴拒否の多かった利用者様

以前から入浴に対して拒否が強く、介助に対しても暴力など見られたが回想法、アロマを取り入れると徐々に拒否の回数も減り、スムーズに入浴できるようになった。

【無形効果】

効果の確認(無形効果)



【標準化の管理と定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	思い出メニューを	食事からも楽しみを提供する為に	栄養科	定期的に	フロア	思い出メニューの提供
	昔の遊びを	親身な対応を行う為に	フロアスタッフ	毎日	フロア	月間のレク表を作成し実行する。
	DBD 13を	認知症状の状態把握を行う為に	フロアスタッフ	6ヶ月に1回	科学的介護推進に関する評価用紙で	アセスメントを行う。
管理	回想法を用いた種類を増やす	利用者満足度の向上の為に	幸せホルモンメンバー	毎月	各部署の会議で	ディスカッションを行う
教育	アロマ	利用者満足度の向上の為に	フロアスタッフ	毎年	研修を受講	資格の取得

【反省と今後の進め方】

手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
テーマの選定	色々な課題に気付けた	-	3カ月に1回のアンケートを取り、課題を発見する
現状把握目標の設定	現在のフロアご利用者の課題点を知ることができた	-	課題点を明確にし現状を把握していくようにする
対策の立案・実施	多職種で多角的な角度からご利用者様に回想法を用いたサービスの提供を行う事が出来た	希望が伝えられないご利用者様の場合には家族へのアプローチも必要だった	幸せホルモンメンバーで毎月の会議の際にディスカッションを行う
効果の確認	味覚や嗅覚、視覚などの五感にも刺激を与える事で、ご利用者の笑顔が増えて、幸せに繋がる事が出来た	胃腸の方や食形態での問題でイベント食の提供が出来ないご利用者様がいた	提供出来なかったご利用者に対するアプローチ方法を会議で検討していく
標準化と管理の定着	多職種連携によるチームアプローチを行う事が出来た	-	回想法を用いたアプローチ方法の種類を増やすために、毎月の会議でディスカッションを行う